

第 27 回（平成 30 年度）鹿児島県青少年国際協力体験事業

ආයුරෝගීන්



アーユーボーワン



鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会

青年海外協力隊鹿児島県 OB 会

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

はじめに



鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会

会長 弓 場 秋 信

(鹿児島県青年海外協力隊を支援する会 事務局長)

鹿児島県青少年国際協力体験事業は、平成3年にマレーシアに派遣以来、今年27回目を迎えました。開発途上国で「国づくり、人づくりに貢献する」青年海外協力隊員の活動現場に鹿児島の青少年を派遣し、国際協力に対する理解を深めると共に、ホームステイ等での異文化体験、学校等での現地学生との交流を通して、国際性豊かな青少年を育成することを目的に、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、公益財団法人鹿児島県国際交流協会で構成された実行委員会を実施しています。これまで、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジアの6ヶ国に県下一円から331名の中高生を派遣しました。

今年の派遣国は、予算、本県出身者の協力隊員の有無、治安状況、ホームステイ先の確保、派遣中隊員数及び職種等から候補国をリストアップしました。そして本県出身者が派遣中の東チモールとフィリピンを候補として調査しましたが、両国ではホームステイ先の確保が難しいことが判明しました。そこで、過去の派遣国も含め現在協力隊員が活躍しているアジアの国々を再調査したところ、現在アジアで最大の派遣者数を誇り、鹿児島からも過去23名が派遣され、ホームステイ先探しに在鹿スリランカ人の協力が得られたことからスリランカに決定しました。

1981年に協力隊派遣が始まったスリランカは、シンハラ人、タミル人、ムーア人等の民族が住む多民族多文化社会です。過去には26年に及ぶタミル人とシンハラ人の民族紛争がありましたが、2009年5月終結し、現在は民族の融和が進み平和を取り戻しています。

本事業の共催市である鹿児島市、鹿屋市、霧島市、枕崎市、南九州市、南さつま市から推薦の12名と、企業の協賛を得ての実行委員会枠3名は、2回の事前研修でシンハラ語、スリランカ事情、青年海外協力隊活動と国際協力、日本・鹿児島について学び、7月25日福岡・香港を経由してスリランカを訪問しました。

団員は、国際協力機構JICAスリランカ事務所で、スリランカにおける青年海外協力隊事業や国際協力等について学んだ後、コロombo市から東北東に45kmのホームステイ先のウラボラ地区に移動しました。一人でホームステイする4泊5日の間には、コロombo市郊外のデヒワラ国立動物園で餌の栄養指導を担当する山尾隊員、ケゴール県の保健所で保健師として活動する長部隊員の現場訪問、ヤタワカ小学校での文化交流、そして村民との文化交流を行なっています。

ここに団員の日々の体験・見たこと・感じたことが綴られた報告書『アーユーボーワン (ආයුබෝවන්)』を作成致しましたので、多くの皆様にご覧いただければ幸甚に存じます。

終わりに、本事業実施に当たりご支援ご協力をいただいた共催市、協賛企業、国際協力機構JICA九州センター、JICAスリランカ事務所、心温まるもてなしでホームステイを受け入れていただいたウラボラ地区ミーガルラ村の皆様、そして活動中の青年海外協力隊員をはじめとする多くの関係者に、心より感謝申し上げますとともに、今後とも本事業へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

も く じ

はじめに

鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会 会長 弓場 秋信

ごあいさつ..... 1

鹿児島県PR・観光戦略部

部長 川野 敏彦

第27回（平成30年度）鹿児島県青少年国際協力体験事業の概要..... 2

参加団員等名簿..... 3

スケジュール..... 4

地図..... 5

体験事業ドキュメント（総集編）..... 6

～事前研修から帰国報告会までの様子を団員の日記と併せて紹介します～

団員が感じたこと..... 17

「スリランカで見えたこと」	池 亀 美 羽
「スリランカで学んだこと」	木 下 耀 太
「世界で通じる「おもてなし」の心」	永 谷 玲葉奈
「スリランカで私が感じたこと」	松 山 和 子
「スリランカという異国の地で感じたこと」	丸 山 健 生
「日本とスリランカの違いと共通点」	栄 村 茉里香
「スリランカ研修で学んだこと」	園 田 玲 音
「スリランカでのホームステイをして」	板 元 麗
「スリランカで学んだことと今後の課題」	杉 田 百 花
「初めての外国で学んだこと」	小 宮 那々花
「「目標」を見つけ出せた研修」	鮫 島 舞 雪
「初めての経験」	今 村 心 美
「スリランカ研修で変わった自分の夢」	福 田 正 宗
「スリランカに触れて」	今別府 幸 芽
「ぼくの挑戦」	徳 永 隼 也

団長報告..... 32

「第27回 鹿児島県青少年国際協力体験事業報告書」

弓場 秋信（鹿児島県青年海外協力隊を支援する会 事務局長）

同行者感想..... 33

「見覚えのある風景」	徳 田 洋
「スリランカ体験事業を終えて」	林 裕 佳
「国際協力体験事業に参加して」	上 野 陽 子
「スリランカに魅せられて」	緒 方 隆
「スリランカでの日々を思い出しながら」	下 山 倫

新聞記事（南日本新聞）..... 38

参考資料

「鹿児島県青少年国際協力体験事業」の概要..... 44

「鹿児島県青少年国際協力体験事業」の実績..... 45

ご あ い さ つ



鹿児島県PR・観光戦略部長

川 野 敏 彦

「第27回(平成30年度)鹿児島県青少年国際協力体験事業」の御成功を心からお喜び申し上げます。

これも、事業実施に御尽力された弓場秋信実行委員会会長をはじめ、関係者の御支援・御苦勞のたまものであり、心から敬意を表します。

また、皆様方にはかねてから本県の国際交流・国際協力に関する施策の推進に格別の御協力をいただいておりますことに対しまして、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

今回の体験事業では、7月25日から8月1日まで7泊8日間の日程で、スリランカを訪問し、現地で動物園飼育員、保健師として指導活動を行っている青年海外協力隊員2人の活動現場を視察したほか、現地家庭でのホームステイ、現地の小学生との交流等を体験したと伺っております。

今回の訪問国であるスリランカは、1952年に日本との国交が樹立されて以来、貿易、経済・技術協力を中心に良好な関係が続いております。2018年はスリランカ独立70周年であり、東京でスリランカの文化理解と観光促進のための事業がスリランカ政府主導で進められていることなどからも、日本とスリランカの関係はより一層親密になっていると思います。

団員の皆さんは、8月7日に県庁を訪問し、県PR・観光戦略部次長及び県教育次長に帰国報告をされました。スリランカの人々の心の温かさや、歴史・生活習慣・文化の違いによる戸惑いや驚きの体験談、青年海外協力隊員の活動を現地で視察した感想など、多岐にわたりたいへん興味深いお話をいただいたとお聞きいたしました。

今回の訪問で、団員の皆さんが自分の目で見て、感じ、考えてきたことは、実際にスリランカへ足を運ばなければ体験することのできない、たいへん貴重なものだと思います。それらを心に深く刻み、実行委員会の方や御家族、渡航先でお世話になった方など事業実施を支えてくださった全ての方々への感謝の気持ちを忘れず、国際交流・国際協力の担い手として、御活躍いただくことを希望しております。

また、今後も様々な機会を捉えて、国際交流・国際協力や国際社会等についての学習を深められ、皆さんの今後の進路決定等に活かしていかれることを期待しております。

最後に、「鹿児島県青少年国際協力体験事業」の今後ますますの御発展と、関係の方々及び団員とその御家族の皆様方の御健勝・御活躍を祈念いたします。

第27回（平成30年度）鹿児島県青少年国際協力体験事業の概要

- | | | |
|------------------|--|--|
| 1 主 催 | 鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会
※ 構成団体 鹿児島県青年海外協力隊を支援する会
青年海外協力隊鹿児島県OB会
公益財団法人鹿児島県国際交流協会 | |
| 2 共 催 | 鹿児島市、鹿屋市国際交流協会、枕崎市教育委員会、
霧島市国際交流協会、南さつま市友好交流推進協議会、
南九州市教育委員会 | |
| 3 後 援 | 鹿児島県
鹿児島県教育委員会
独立行政法人国際協力機構九州センター | |
| 4 協 力 | 駐日スリランカ民主社会主義共和国大使館 | |
| 5 協 賛 | (株)鹿児島銀行
鹿児島空港ビルディング(株)
鹿児島トヨタ自動車(株)
鹿児島ヨコハマタイヤ(株)
キンコ-醤油(株)
小正醸造(株)
薩摩酒造(株)
(株)下堂園 | 城山観光(株)
南国殖産(株)
(株) Misumi
(株)南日本銀行
(株)山形屋
(株)レイメイ藤井
弓場貿易(株) |
| 6 事業の流れ | 4月～5月
6月16日(土)
6月30日(土)～7月 1日(日)
7月25日(水)
8月 1日(日)
8月 7日(火)～8月16日(木)
8月19日(日)
9～10月 | 募集・団員決定
第1回事前研修
第2回事前研修
出発
帰国
表敬訪問
報告会
報告書作成 |
| 7 派 遣 国 | スリランカ民主社会主義共和国 | |
| 8 派 遣 期 間 | 平成30年7月25日(水)～8月 1日(水) | |
| 9 派 遣 人 員 | (1) 参加者 15名
(2) 引率者 6名 | |

参加者団員等名簿

■ 団 員

	名 前	性別	学 校	学年	市 町
1	いけ がめ み う 池 亀 美 羽	女	鹿児島純心女子高等学校	3	鹿児島市
2	きの した よう た 木 下 耀 太	男	鹿児島大学教育学部附属中学校	3	鹿児島市
3	なが たに れ よ な 永 谷 玲葉奈	女	鹿児島大学教育学部附属中学校	3	鹿児島市
4	まつ やま わ こ 松 山 和 子	女	鹿屋市立第一鹿屋中学校	1	鹿屋市
5	まる やま けん せい 丸 山 健 生	男	鹿屋市立輝北中学校	3	鹿屋市
6	さかえ むら ま り か 栄 村 茉里香	女	鹿児島県立川辺高等学校	2	枕崎市
7	その だ れ のん 園 田 玲 音	女	鹿児島県立川辺高等学校	3	枕崎市
8	いた もと うらら 板 元 麗	女	龍桜高等学校	2	霧島市
9	すぎ た もも か 杉 田 百 花	女	鹿児島県立国分高等学校	2	霧島市
10	こ みや な な か 小 宮 那々花	女	鹿児島県立川辺高等学校	2	南さつま市
11	さめ しま ま ゆ 鮫 島 舞 雪	女	鹿児島県立川辺高等学校	2	南さつま市
12	いま むら ここ み 今 村 心 美	女	鹿児島県立川辺高等学校	2	南九州市
13	ふく だ まさ むね 福 田 正 宗	男	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	3	志布志市
14	いまべつ ぶ こう め 今別府 幸 芽	女	鹿児島高等学校	2	姶良市
15	とく なが じゅん や 徳 永 隼 也	男	龍郷町立赤徳中学校	1	龍郷町

■ 同行者

		名 前	性別	備 考
1	団 長	ゆみ ば あき のぶ 弓 場 秋 信	男	鹿児島県青年海外協力隊を支援する会 事務局長
2	調 整	とく だ ひろし 徳 田 洋	男	(公財) 鹿児島県国際交流協会 総務企画課長
3	調 整	はやし ゆ か 林 裕 佳	女	クラーク記念国際高等学校 鹿児島キャンパス 教諭 青年海外協力隊スリランカ OG (日本語教師)
4	健康管理	うえ の よう こ 上 野 陽 子	女	十島村役場 保健師 青年海外協力隊バヌアツ OG (看護師)
5	マスコミ	お がつ りゅう 緒 方 隆	男	南日本新聞社 編集局報道部 記者
6	マスコミ	さが やま ひとし 下 山 倫	男	南日本放送 報道局報道部 記者

スケジュール

月 日	曜	地 名	時 刻	交通機関	内 容	宿 泊
7月25日	水	鹿児島中央駅 鹿児島中央駅 博多駅 福岡空港 香港 香港 コロンボ	9:40 10:48 発 12:13 着 15:10 発 17:45 着 20:15 発 23:05 着	新幹線さくら552 CX5343 CX611 バス	集合・結団式 福岡空港へ移動 チェックイン ホテルへ移動	
7月26日	木	コロンボ ガンパハ県ウラボラ地区	11:00 ~ 12:30 15:00	バス	JICA スリランカ事務所 表敬 ホームステイ先へ移動	ホームステイ
7月27日	金	コロンボ ガンパハ県ウラボラ地区	10:30 ~ 12:00 15:00 ~ 16:00	バス	青年海外協力隊活動視察 【動物学：山尾 紗代 隊員】 場所：デヒワラ動物園 ヤタワカ小学校との交流	ホームステイ
7月28日	土	 ガンパハ県ウラボラ地区			ホストファミリーと過ごす	ホームステイ
7月29日	日	 ガンパハ県ウラボラ地区			ホストファミリーと過ごす 夜：お別れ会	ホームステイ
7月30日	月	ガンパハ県ウラボラ地区 ケゴール県	10:00 13:00 ~ 15:00	バス	村とお別れ 青年海外協力隊活動視察 【保健師：長部 千寿 隊員】 場所：デヒオウィタ保健所	ホテル
7月31日	火	コロンボ		バス	コロンボ視察（周辺観光） ・ヒンズー教寺院 ・ジャヤワルダナ記念館 他	
8月1日	水	コロンボ 香港 香港 福岡空港 鹿児島	0:20 発 8:25 着 9:35 発 14:00 着 19:00 着	CX610 CX5342 バス	 解団式（県民交流センター）	機内泊

地 図



スリランカの州区分地図



ウラポラ地区ホームステイ先地図

